

葉桜

作 岸田國士
脚色・演出・音楽 斎藤歩

岸田國士が大正十四年に書いた「葉桜」を、2019年4月、元号が「平成」から「令和」に変わったばかりの札幌で、設定を現代の札幌に書き換えて脚色・演出し、シアターZOOで初演しました。

「大正」のころは「お見合い」だった設定は、「令和」の札幌ではスマホを介した「婚活サイト」に置き換わり、相手からOKか否か返事を迫られている娘と母が、既に花が散り、葉桜となつてしまった小さな桜の木の下で、互いの揺れ動く心中を探り合いながら対話する60分ほどの「喜劇」に仕上げてあります。

娘は結婚し、新しい家庭を築く。母親は、一人娘を家庭から送り出し、還暦という節目も意識せざるを得ない年齢に差し掛かったタイミングで一人暮らしを始めなければならぬ。母と娘、二人の人生に大きな変化をもたらす「結婚」。母と娘、父親不在の家庭、二人で暮らした生活が大きく変わらざるを得

ない局面に立たされた「昭和」と「平成」、異なる価値観を持つ二人の女が、春風に煽られて微かに揺れ動く葉桜の木の下、どのような将来を思い描き、どのような選択をし、OKか否か、求められている結論に答え、新しい人生に進もうとするのか。

「令和」の時代もすでに7年目となり、世界はますます混乱を極め、将来を見通すことが困難になっています。「平成」の頃、誰がこんな「令和」の世界を、日本を予想したのでしょうか？

「昭和」生まれの母親を磯貝圭子、「平成」生まれの娘を熊木志保が演じます。

斎藤歩

出演



札幌座
磯貝圭子



札幌座
熊木志保

再演によせて

「葉桜」に何度も取り組めることをとても幸せに感じております。再演の機会を与えてくださった富良野の皆様へ心より御礼申し上げます。時代が変わるとともに変化していく結婚への価値観と、どんな時代でも変わらない母と娘それぞれへの想い。令和7年の皆様の目にどのように映るのでしょうか。劇場でお会いできる日を心待ちにしています。

【スタッフ】清水友陽、木村美結、前田透 照明/竹屋光浩（ヘリウムスリー） 宣伝美術/若林瑞沙（Studio COPAN）
撮影/渡辺遼司 制作/札幌座

日時・会場

2025年

7月19日(土)14:00開演(13:30開場)

富良野演劇工場

富良野市中御料



料金

一般：3,000円(当日3,500円)

演劇工房会員：2,500円

小中高生：1,500円

※全席自由 ※未就学児入場不可 ※親子室あり(要予約)

チケット購入・予約・お問い合わせ

富良野演劇工場

◆電話：0167-39-0333(10:00~17:00)

◆メール予約

右記 QR コードを読み取り、必要事項を入力の上送信してください。

メール予約専用



主催：NPO 法人ふらの演劇工房

共催：公益財団法人北海道文化財団

協力：舞台芸術共同企画

後援：北海道、富良野市、富良野市教育委員会